

特集 1

自信と誇りのお茶作り—

そお市の お茶を伝える





曾於市茶業振興会
会長 片平 敏生 さん

お茶を飲んでもらう きっかけづくり

曾 於市は寒暖差が大きいため
味深い深いお茶が作られて
います。近年ではペットボトル向
けの生産が増えているそう。

曾於市茶業振興会では普及活動
としてイベントなどに百円茶屋の
出店や小学生へお茶の淹れ方教室
などを開催。今年は新型コロナウ
イルス感染症の影響で思うような
活動ができない中、市内の小学校
から高校までの児童・生徒全員に
鹿児島茶をプレゼントしました。

会長の片平さんは「地元のお茶
を飲んでもらうきっかけづくりを
していきたい」と話していました。



小学生に伝える

こ の日、中谷小学校には急須・
湯飲みが並べられ、曾於市
茶業振興会・財部町茶業青年の会
によるお茶の淹れ方教室が開かれ
ました。お茶は抽出する温度が低
いと苦味や渋みが抑えられ甘みの
あるお茶になります。児童は約70
度に冷ましたお湯を急須に入れ、
1分程度待つて最後の一滴までお
茶を注ぎました。6年の日高翠玲
さんは「今までお茶を淹れたこと
がなかったけど、簡単に美味しく
淹れられたので家族にも淹れてあ
げたいです」と話しました。



品質を高めるために

曾於市茶業振興会では普及活動に加え、
高品質なお茶を作るために茶葉の生育状
況や煎茶の製造過程の検討を行っていま
す。生産者が協力し、より良い製造方法
を考える努力によって美味しいお茶が作
られています。

